

## 【参考】令和6年度 第2回教育行政評価委員会における意見

### 施策1 体力・学力を高める教育・保育の推進

● 運動の楽しさを感じる取組の充実	
意見	食を大事にするという基本をもとに事業を行っている。学力・体力の順番ではなく、体力・学力とまず体力をもってきていることが多治見市の特徴であり、施策に活かされている。

● 主体的・対話的で深い学びの実現（教育研究所）	
意見	小学校の学力は全国平均以下であるが、中学生になると全国平均以上となっている理由について説明があるとよい。
対応	小学校で探究的な学びを通して、丁寧に学び方の基礎を身に付けることで、中学生になった際に学校・家庭で主体的に学ぶことができるようになっていることが一因であると考えられる。
意見	学力と体力の相関関係について、教員は教科別研究会等で情報交換したり、人事異動による経験を踏まえて調査するとよい。 国語は、中学生が小学校の時より教科の勉強は好きと答えた割合がかなり増えている。点数よりも大事なことであり、特徴であるため、そこも含めて検証する方法を考えていくとよい。
対応	多治見市では運動習慣の向上が学習習慣や生活習慣につながると考え、楽しんで運動に取り組みながら体力を向上できるよう、幼稚園・保育園から中学校まで継続的に取り組んでいる。 全国では中学校になるにつれて好きと答える割合が下がっているが、多治見市では高まっている。中学校で、専門性の高い教員が指導することで、反復学習よりも主体的に課題を解決する活動が充実していることが一因であると考えられる。

● 食育による健やかな心身の育成	
意見	学力・体力を支える食を重視し、調理員を対象にした研修を実施していることや、アレルギーのことも丁寧に対応していることが分かる。また、食育動画の配信は、赤、黄、緑の野菜のことやカレーの作り方がよく分かる。学校の大事な教育活動の一つであり、学校生活を支えている栄養職員への認識にも繋がる。

## 施策2 社会性と豊かな心を育む教育の推進

● 心の教育の充実 (教育相談室)	
意見	いじめは駄目だとか、差別は駄目だというのは、どうしても道徳的な考えになってしまう中で、法律に基づく観点から考えさせるという意図で、弁護士の方にお話を聞くのはよいことである。保護者の方にも好評であったのもよく分かり、保護者もそのような観点からみる、ただ駄目だというのではなく、法律に基づいて保護者に意識させるということは大事である。
意見	弁護士による「いじめ防止・自立と共生授業」は、おとなしい子や存在をなかなか表せにくい子への助けになっている。いじめに対して無関心ではいけない、自分は何をしたらよいかと考えるようになるよ。
対応	授業の中では、ドラエモンを例にして、登場人物を加害者、被害者、傍観者とみだてて、自分が傍観者であったとき何ができるかを考えさせる授業になっている。直接は言うことはできないが、見たら先生に相談してみようと思うとか、親に話してみようと思うとか、といった意見が聞かれて、自分として何ができるかということを考えて、取り組むような活動になっている。

● キャリア教育の推進	
意見	U-6研修は、若い教員にとって非常によいシステムである。若い教員が生き生きと授業を行い、ベテランの教員にアドバイスを求めることができる機会である。また、キャリアアップの一環としてブルーベリーさんとタイアップし、オンラインで様々な職種の方の話聞くのは面白い。視聴会ランキングでイラストレーター、ゲームクリエイターが上位であるが、これらの職業は感性で自分の個性を出していくものであり、そのようなことを重視していると感じる。食育、体力づくりでいきいき体を動かすことも感性を育てることに繋がる。

● 読書活動の充実 (教育研究所)	
意見	多治見市だけではないが、学年が上がるにつれて、読書数が減る傾向にある。学校司書の配置も含めて、本の紹介など働きかけも必要である。
対応	<p>図書主任や学校司書が中心となって、図書委員の活動等を通じて働きかけを行っている。</p> <p>高学年になるにつれて、委員会活動や係活動等で読書の時間を確保しづらい傾向にあるので、朝読書の時間を確保するなど学校ごとに工夫を凝らしている。</p>
意見	図書司書を2人ずつ増やし、10人にする予定であること、キキョウスタッフも同様であるが、人材確保が難しい中、スタッフの充実に力を注

	いでいる。地域の人材、栄養士、司書、地域の方など、大人が子どもに接することは、子どもにとってよいことであるだけでなく、大人も子どもから元気やパワーをもらうことができる。双方向の循環が教育の中で生かされている。
--	--

● 郷土愛を醸成する教育の推進（教育研究所）	
意見	郷土愛についてであるが、地産地消もこれに繋がっている。甘原のイチゴジャムなど、地域への意識が高まっている。さらに、地域の昔を知るということで、例えば戦争について、子ども達が知っておくべきことであるため、避難等のことなど、地域の高齢者の方に聞くとよい。
対応	多治見空襲の被災者から直接話を聞く活動を位置付けている学校もある。ただし、被災者が高齢のため、今後の活動については検討している。

### 施策3 家庭、学校・園、地域の連携の推進

● 親育ち支援事業の充実	
意見	パパとママの初めての子育て講座では、子どもが減っている中、参加者が増えて、目標値も上方修正し成果がでている。子育てに不安を抱えている方が参加することで横のつながりができ、相談できる仲間がいることが実感できていることが分かる。

● 各種団体と連携したジュニアクラブの推進（教育推進課）	
意見	ジュニアクラブの加入者数が減ってきている。ジュニアクラブに入ることができないという親の話をよく聞く。今加入している親は、ある程度余裕があったり、働いていなかったり、無理してやらせていたりしているが、今のやり方では、これからの親は難しいと感じる。親の負担が多いと加入者数が減ってくるのは必然であるため、フォローが必要である。
意見	ジュニアクラブは、送迎等の親の負担が多い。例えば学校運営協議会の方や地域でバスを運転している方たちが、保険に入った上で、送迎の面は協力できる等、人材活用ができるとよい。
対応	今後も、生徒が通っている中学校にジュニアクラブがある場合は、そちらに加入することを推奨していく。通っている中学校に自分が入りたいジュニアクラブがない場合の対応については、今後の市部活動地域展開検討会議で話題にしていく。

## 施策4 多様な課題に応じた支援の推進

● 特別支援教育における支援体制の充実	
意見	<p>医療的ケア児の支援において、医療的ケア運営協議会を設置し、関係者が共通理解を図ったとあったが、現場で対応するうえでは、特に看護師にとっては、そのような協議会を設置することは大事である。</p> <p>特別支援コーディネーターの研修の内容が、具体的に記載されておりよく分かった。特別支援に関わる就学手続であるとか、学級編成であるとか、特別支援学級に入級するとか特別支援学校へ進学するとか、分かっているようで分かっていない部分があるため、特別支援コーディネーターが研修を受け、自校で研修の内容を周知することで、通常学級の担任も、理解を深めていくことが大事である。</p>

● 個々の教育的ニーズに応じた支援	
意見	<p>経済的な支援を要する児童生徒の就学援助については、入学前支給として1月の時点で支給しており、子どもや保護者の立場にたった対応である。ニーズのある方へ確実に情報を伝えることができている。外国籍の子ども達や日本語が話せない子ども達についての支援もさらに必要になっている。</p>

## 施策5 学びを支える教育環境の充実

● 教職員の働き方改革の推進	
意見	<p>サポートスタッフ及び地域人財の活用にあるように、子ども自身の力で頑張れとか教員に自ら技量を上げて教育に携われということではなく、キキョウスタッフやICT推進員等のサポート体制が整備されているため、教員が頑張ることができ、子ども達に反映されている。</p>

## 総合的な意見

全体を通して	
意見	<p>様々な意見を把握し、その問題点にすぐ改良を加え、現場にフィードバックし、また改良を加えてといった形で、多治見市の教育は成り立っていることがこの資料で分かった。</p> <p>子ども達の自己肯定感を育むことが重要である。成果などの結果だけを見るのではなく、ごみを拾っているよね、花の水をかえてくれているよね</p>

	<p>といった些細なことを褒めることで、自己肯定感を高めて欲しい。それが、感性にもつながっていくと思う。</p>
意見	<p>この会議に参加できて、様々なことを知ることができた。多くの方に知って欲しいと思うため、発信をして欲しい。また、自己肯定感はとても大事である。子どもが自己肯定感を高めるには、保護者や教員の自己肯定感を上げることが必要で、そのような環境づくりが必要である。教職員の働き方改革等が該当する。</p>
対応	<p>この教育行政評価報告書は、市のホームページに掲載し、多治見市の教育行政について広く情報発信していく。</p> <p>第3次教育基本計画の「めざす子ども像」実現のために、引き続き基本施策を基にした具体的な取組を確実に推進していく。</p>
意見	<p>多治見市の教育が良くなっていると感じる。子育てしやすい。</p> <p>また、資料を見ると様々な研修があり、教員も大変であると感じる。人員確保も苦勞するところであると思う。</p>
意見	<p>めざす子ども像があり、その子どもを育てるにはどうしたらいいのか考え、教員の力をつけるとか、学校環境を整えるとか、筋道だった教育基本計画の中で教育活動が進められていることが分かる。教育委員会は、子どもにとってよかれと思えば様々なことを取り入れていくが、取捨選択していかないと、教育委員会もパンクしてしまう。保護者や地域と連携していくこと、メリハリをつけて教育委員会の方も健康に留意して欲しい。</p>
意見	<p>多治見市は、大変しっかり教育活動に取り組まれているし、資料も見やすく分かりやすい。その基となるのは、教育実践や保護者、住民、教員の頑張りである。これに応じて子どもたちが体力や学力の点数もさることながら、国語も好きだといっているため、日々の学びは充実していることは資料でよく分かった。また新米のパパ・ママも子育てに悩んでいても相談できる相手が近くにいるような事業を行い、参加者も増え、目標値も上がっている。日頃しっかり、子どもたちや学校現場や様々な学びの場にも足を運んでいることが分かる。一方で庁内でも予算折衝や人員確保等で様々な部署との折衝にも尽力していることが分かる。目標については、2年間経って、検討する必要がある。例えば「多治見市に愛着がありますか」の質問に対する回答が小学校低学年 95.7%、小学校高学年 88.9%、中学生 76.1% になっているため、目標値の 50%は見直す必要がある。また、「子どもや保護者へ向けた食育講座の実施回数」の目標が3回であったのが 23 回というのは素晴らしい。回数も重要であるが、やること自体が大きな目的ではなく、食育講座に出てよかったとか、充実していたとか、家庭でもやってみたといい、中身が大事になってくるため、満足度や充実度についての参加者のアンケートをとり、結果について資料につけ加えるとよい。ストレスチェックのところは休職者がいるため、100%が無理であれば、実施可能な方の中で 100%とか、休職者を見込んだ目標値にした方がよい。来年度に向けて検討して欲しい。</p>

対応

目標値については、令和7年度から以下の通り修正する。

○施策1 3 情報活用能力の育成

「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問で「役に立つと思う」と回答した割合（「自立・共生・挑戦等に関する調査」の項目）

基準値 (令和4年度)	現状 (令和7年度)	目標 (令和9年度)
小学校 70.5% 中学校 62.0%	小学校低学年 97% 小学校高学年 97% 中学校 94%	小学校 80.0%→ <u>小学校低学年 98%</u> <u>小学校高学年 98%</u> 中学校 70.0%→ <u>中学校 96%</u>

○施策2 1 心の教育の充実

「みんなと違う意見も大事であると思うか」の質問に「とてもそう思う」「思う」と回答した割合（「自立・共生・挑戦等に関する調査」の「共生」の項目）

基準値 (令和4年度)	現状 (令和7年度)	目標 (令和9年度)
小学校 92.1% 中学校 91.0% (R3年度結果)	小学校低学年 94% 小学校高学年 96% 中学校 99% ※令和6年度 小学校低学年 92.5% 小学校高学年 96.4% 中学校 98.1%	小学校 95%→ <u>小学校低学年 96%</u> <u>小学校高学年 98%</u> 中学校 95%→ <u>中学校 99%</u>

「自分のよさを認めてくれる仲間がいると思うか」の質問に「とてもそう思う」「思う」と回答した割合（「自立・共生・挑戦等に関する調査」の「自己有用感」の項目）

基準値 (令和4年度)	現状 (令和7年度)	目標 (令和9年度)
小学校 86.6% 中学校 88.0% (R3年度結果)	小学校低学年 81% 小学校高学年 91% 中学校 94% ※令和6年度 小学校低学年 77.6% 小学校高学年 90.5% 中学校 92.5%	小学校 90.0%→ <u>小学校低学年 90%</u> <u>小学校高学年 93%</u> 中学校 90.0%→ <u>中学校 96%</u>

「自分にはよいところがあると思うか」の質問に「とてもそう思う」「思う」と回答した割合 (「自立・共生・挑戦等に関する調査」の「自己肯定感」の項目)		
基準値 (令和4年度)	現状(令和7年度)	目標(令和9年度)
小学校 83.5% 中学校 77.8% (R3年度結果)	小学校低学年 88% 小学校高学年 85% 中学校 87% ※令和6年度 小学校低学年 84.6% 小学校高学年 82.7% 中学年 84.1%	小学校 85%→ <u>小学校低学年 90%</u> <u>小学校高学年 87%</u> 中学校 80%→ <u>中学校 90%</u>

○施策2 2 キャリア教育の推進

「難しいことでもやってみようと思うか」の質問に「とてもそう思う」「思う」と回答した割合 (「自立・共生・挑戦等に関する調査」の「挑戦」の項目)		
基準値 (R4年度)	現状(令和7年度)	目標(令和9年度)
小学校 86.3% 中学校 76.9%	小学校低学年 93% 小学校高学年 89% 中学校 87% ※令和6年度 小学校低学年 92.8% 小学校高学年 86.9% 中学校 84.1%	小学校 90%→ <u>小学校低学年 95%</u> <u>小学校高学年 91%</u> 中学校 80%→ <u>中学校 90%</u>

○施策2 4 郷土愛を醸成する教育の推進

「多治見市に愛着がありますか」の質問に「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合 (「自立・共生・挑戦等に関する調査」の「郷土愛」の項目)		
基準値(令和4年度)	現状(令和7年度)	目標(令和9年度)
—	小学校低学年 96% 小学校高学年 90% 中学校 79% ※令和6年度 小学校低学年 95.7% 小学校高学年 88.9% 中学校 76.1%	小学校低学年 50%→ <u>98%</u> 小学校高学年 50%→ <u>92%</u> 中学校 50%→ <u>82%</u>

校区の青少年まちづくり市民会議が行う活動にスタッフとして参加した児童生徒の割合→延べ人数		
基準値（令和4年度）	現状（令和6年度）	目標（令和9年度）
5.0% (R3年度結果)	15.0%	10.0%→ <u>1,000人</u>

---